

平成26年度大学コンソーシアムとちぎ 学生活動支援事業 報告書

機 関 名	宇都宮大学
団 体 等 名	鹿沼でほうき草を作る会
学生代表者氏名 (所属・学年)	津久井 良明 (農学部農業経済学科・4年)
責任教職員氏名	加藤 弘二 准教授

1. 事業名	鹿沼でほうき草を作る会
2. 実施時期	2014年4月～2015年3月
3. 実施場所	栃木県鹿沼市下奈良部地区、宇都宮市
4. 事業の内容等	<p><事業概要></p> <p>「鹿沼でほうき草を作る会」は、栃木県伝統工芸品に指定されている座敷ほうき（鹿沼ほうき・都賀の座敷ほうき）の存続のための活動をしている。座敷ほうきの原料となる「ほうき草（ホウキモロコシ）」を生産し、伝統の継承、生産基盤を保存していくことを目的にしている。</p> <p>伝統継承、生産基盤の保存のほかにもこれからの「ほうき草」についても考え、より上質なものを作れるよう座敷ほうきに関する調査や研究を行うほか、座敷ほうきについての情報発信などにも取り組んでいる。</p> <p><今年度実施した事業内容></p> <p>鹿沼市下奈良部地区の約15aの耕作放棄地を借り、ほうき草の栽培を行った。SNSを利用して、草栽培の様子など活動についての情報発信を行ったほか、日本農業新聞、宇都宮ケーブルテレビから取材を受けた。また、11月の宇都宮大学ホームカミングデーにおいて、ブースを設け活動報告なども実施した。</p>
5. 事業の成果と今後の課題	<p><事業成果></p> <p>ほうき草の安定的生産基盤となることで、ほうき職人の制作活動の下支えとなり、伝統文化の継承・発展に貢献することができた。</p> <p>ほうき草の栽培については、天候不良や畑の地力の問題で予定していた本数の生産ができなかった。草の評価は職人さん曰く、草が硬いため私たちが目指す「鹿沼ほうき」を作るには向かないとの評価だった。「鹿沼ほうき」の製作は叶わなかったものの、東京型と呼ばれる座敷箒28本を職人さんに編んでいただいた。</p> <p>その他の活動では、テレビ局、新聞社からの取材やSNSでの情報発信を行い、多くの人からたくさんの反響があった。</p> <p><今後の課題></p> <p>長期的な活動に向けた後継学生の確保。「鹿沼ほうき」に向く草作り。</p>

- (注) 1. 記述が枠内に収まらない場合は、枠を拡大してください。
2. 事業内容がわかるような資料や写真などがあれば添付してください。
報告書（添付書類を含む）はA4判5枚以内にまとめてください。
3. この報告書は、各関係機関等に公表するとともに、大学コンソーシアムとちぎのホームページへの掲載を考えております。また、次年度以降の学生活動支援事業に役立てていきたいと思っております。



資料1 耕作放棄地（整備前）



資料2 整備後の耕耘作業



資料3 ホウキモロコシ畑



資料4 除草作業



資料5 天日干し作業



資料6 完成した座敷箒